

満洲語で書かれたダグル語文献の研究

A Study of Dagur Literature Written in Manchu Script

海蘭 Kailan (M1)

ダグル語はモンゴル諸語の一つ、ダグル族の言葉である。主な居住地点は、内蒙古自治区の呼倫貝爾盟、黒龍江省の齊齊哈爾市周辺、さらに嫩江とその支流沿岸、および、新疆ウイグル自治区のチョチェク（塔城地区）県である。この内、呼倫貝爾盟の莫力達瓦達斡爾族自治旗と齊齊哈爾市郊外地区に、もっとも人口が集中している。

ダグル族は固有の文字を持たない。『清代達呼爾文文献研究』（2001年・内蒙古大学出版社）によるとダグル人達は17世紀から満洲に従ったことから満洲語を学び、使うようになった。康熙帝と乾隆帝のときダグル族の中に満洲語を教える官学を作って満洲語を教えていた。満洲文字によってダグル語の歌、詩、散文、旅行記などを書いた資料が残っている。

研究資料：『清代達呼爾文文献研究』は、清朝のときにダグルのアラブタン、マメンチ、チントンプ等の有名な作家が満洲文字によって書いたダグル語の51の文章を編集した文献である。文献には、清朝時代のダグル族の社会と生活を反応した日記、旅行記、叙情詩、漢文の翻訳詩などが含まれている。

研究目的：修士課程の研究の目的は51の文章を一つずつ分析し、ローマ字で転写し、語彙を整理することによって満洲文字でダグル語を記録する体系を明らかにすることである。